

# DX 今物語

23

今やビジネス・社会生活のライフラインでもある多種多様なITサービス。それらを支えるネットワークインフラは、需要の増大に合わせてますます高度化・複雑化しています。

一方IT人材の減少と高齢化加速の中で、より少ない要員での運用が求められる。



◇あかいし たくし ひろあき 金融公  
共営業部門のチームマネージャ。お  
客様に常に寄り添い、綿密なコミュニ  
ケーションを図る中で潜在的課題をも  
掘り起こしつつ、ソリューション提案  
を通じてお客様貢献に向けてチーム一  
丸となって取り組んでいる。

NTTアドバンステクノロジ  
Value Co-creation  
事業本部ビジネスソリューション第三部門

担当課長 赤石澤 広顕

めには何より迅速・的確な対応が必須であり、人手に頼る非効率な運用からの脱却が求められているのもそのためです。

では、何から手を付けたらよいのでしょうか？ツギハギだらけで混沌を極めるネットワークインフラ再構築が抜本策とはいえ即効性と経済性の面から困難ですし、障害発生に備えハイレベルな技術者を待機させておくのも前述の背景から非現実的です。

DXが叫ばれる昨今、「障害対応も自動化できたらいいのに…」と考える方も増えますよね。

実は私もNTT-ITでは、このような課題解決の一助となるトラブルシューティング可視化・自動化ソリューション「Network Brain」(ネットワークブレイン)を提供しています。このところ金融業界からのお引き合いも

## ネットワーク障害対応のニューノーマル、キーワードは「自動化」

多く、ご導入事例も増え続けています。

障害対応の自動化にはいくつかのステップがあります。現在の手作業をステップ0とした場合、ステップ1では、障害対応時など必要なときに瞬時に最新のネットワークインフラ構成図(マップ)や、構成機器の設定情報(最新情報/変更履歴)などのドキュメント類を自動で作成します。これにより、構成変更が頻繁におこる運用の現場であっても担当者は正確な情報を確認しすぐに分析に取り掛かることができます。

ステップ2では、障害ごとの作業内容を実行手順書に起こします。具体的には①マップ上で影響範囲特定、対象機器の動作状況確認②障害発生機器間の特定③被疑機器周辺の情報収集、正常時と現在の設定情報比較による異常値確認④機器管理者に情報共有

などの手順です。実行手順書をもとに担当は迷わずばやく対応できるため、原因特定までの時間短縮につながります。また、その後の類似障害発生時に、誰もがこの手順を実行して即応できることから、知識・ノウハウの属人化防止、対応スキル・品質の平準化や向上も図られます。

ネットワークブレイン単体でもここまでことができますが、他ソリューションとの連携によるステップ3では、監視機器アラートをトリガーにしたマップ作成やトラブルシューティングの自動実行、さらにステップ4では、定期検証自動実行によるネットワーク全体の正常性確認やトラブル解析等、更に高度な自動化を実現できます。

ネットワーク障害対応の自動化は、新時代におけるニューノーマルとして拡大中です。